

試験研究成果普及情報

部門	病害虫	対象	研究
課題名：合成性フェロモントラップを用いたアカスジカスミカメ発生消長の把握			
[要約] イネ科雑草地及び水田におけるアカスジカスミカメのフェロモントラップによる誘殺数の推移は、従来のすくいとり法による捕獲数と同様な消長を示すことから、発 生予察手法として利用可能である。			
キーワード 斑点米、アカスジカスミカメ、フェロモン、発生消長			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・生産環境部・病理昆虫研究室 協力機関 (独)農研機構中央農業総合研究センター、鳥取県農林総合研 究所、(株)信越化学工業、香取農林振興センター、農林総合 研究センター・病害虫防除課		
実施期間	2007年度～2009年度		

[目的及び背景]

斑点米カメムシ類は、玄米の品質を低下させる要因として水稻生産上の重要害虫に位置づけられている。近年アカスジカスミカメによる被害の増加が千葉県北部で報告され、本種の発生生態の解明と防除対策の確立が急務となっている。そこで、アカスジカスミカメによる斑点米被害防止対策確立のため、近年開発されたアカスジカスミカメ合成性フェロモン剤による発生量調査の有効性を明らかにする。

[成果内容]

- 1 発生源となるイネ科雑草地及び水田におけるフェロモントラップによる誘殺消長は、従来のすくいとり法による調査結果と同様な消長を示す(図1、2)。
- 2 水田ではすくいとり調査で捕獲されないような低密度でも、フェロモントラップでは誘殺が確認される。すくいとりによる捕獲数とトラップ誘殺数の間には有意な回帰直線が得られる(図3)。
- 3 水田内におけるフェロモントラップの設置場所は、畦畔際を除くと、3m以上内部であればどの位置に設置しても誘殺数に違いはみられない(図4)。

[留意事項]

平成22年度末時点で本剤はまだ市販されていないが、本事業で本剤の有効性が示されたことから、現在市販化に向けての検討が行われている。

[普及対象地域]

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

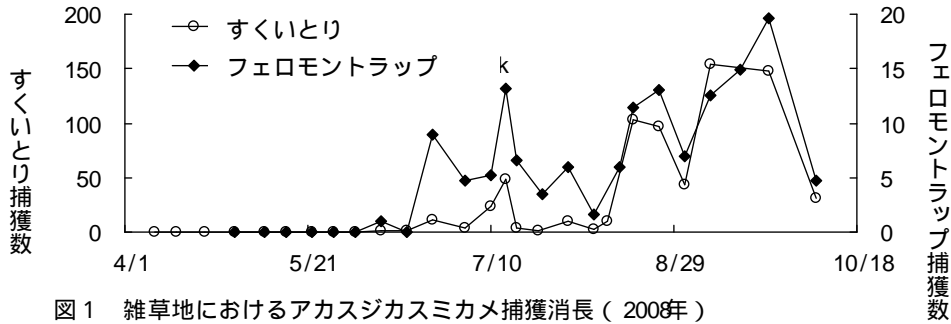


図1 雑草地におけるアサジカスミカメ捕獲消長 (2008年)
 注1) すくいとり捕獲数は20回振りあたりの捕獲数を示す
 2) フェロモントラップ捕獲頭数は1週間あたりの雄成虫捕獲頭数を示す

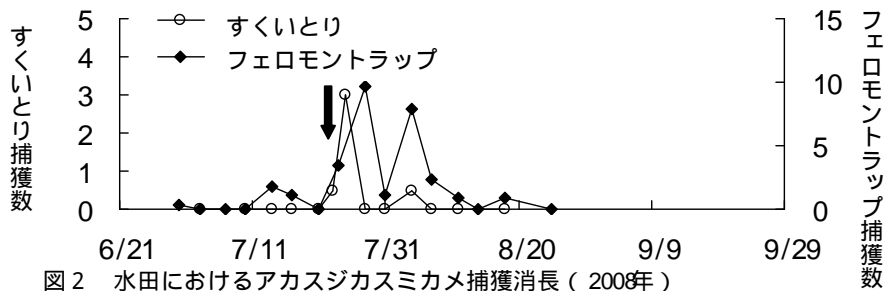


図2 水田におけるアサジカスミカメ捕獲消長 (2008年)
 注1) 品種は「あきたこまち」
 2) すくいとり捕獲数は20回振りあたりの捕獲数を示す
 3) フェロモントラップ捕獲頭数は1日あたりの雄成虫捕獲頭数を示す
 4) 図中の矢印は水田の出穂期を示す

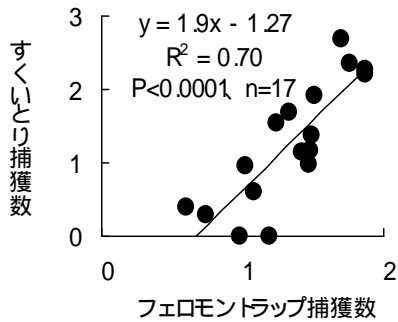


図3 水田におけるアサジカスミカメすくいとり捕獲数とフェロモントラップ捕獲数の関係 (2008年あきたこまち)
 注1) 説明変数は出穂期から1週間のフェロモントラップ捕獲雄成虫数の総計の対数値を示す
 2) 目的変数は出穂期から1週間のすくいとり捕獲成虫数の総数 (40回振り3回調査) の対数値を示す

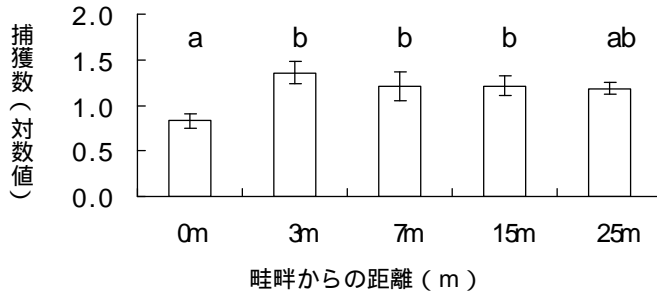


図4 トラップの設置位置ごとのアサジカスミカメ捕獲数
 注1) 縦軸は7月18日から7月31日の雄成虫捕獲数の対数値 (Log(x+0.5)) を示す
 2) 異なる文字どうしで有意差あり (tukey法による多重比較でP<0.05)

[発表及び関連文献]

アサジカスミカメ合成性フェロモン剤による発生消長の把握、応用動物昆虫学会(投稿中)

[その他]

- 1 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「課題名：合成性フェロモン活用によるアサジカスミカメ管理技術の開発」
- 2 平成18年度試験研究要望課題 (提起機関：香取農林振興センター)